（１３）えだまめ

ア　各病害虫の防除

菌核病

紫斑病

白絹病

灰色かび病

モザイク病

ダイズサヤタマバエ、チョウ目害虫、カメムシ類

タネバエ

ハスモンヨトウ

センチュウ類

アブラムシ類

コガネムシ類

ハダニ類

フタスジヒメハムシ

ア　各病害虫の防除

【留意事項】
（□は総合防除計画に掲載している病害虫）

菌核病

（薬剤防除）　農薬登録情報
1　発病を認めたら、薬剤のいずれかを散布する。

紫斑病

（耕種的・物理的防除）
1　無病株から採種する。

（薬剤防除）　農薬登録情報
1　薬剤を粉衣するか、塗沫処理する。
2　薬剤を発生初期に散布する。

白絹病

（耕種的・物理的防除）
1　発病株は、周囲の表土と共に抜き去る。

灰色かび病

（薬剤防除）　農薬登録情報
1　薬剤を発生初期に散布する。

モザイク病

（耕種的・物理的防除）
1　無病株から採った種子を使う。
※種子伝染する。
※病株の種子は褐色斑粒を生ずることが多い。
2　苗床には発芽直前から白寒冷紗をかけ、有翅(し)アブラムシの飛来を防ぐ。
3　本ぽでは、シルバーポリマルチを使用する。
4　発病株を速やかに抜き去る。

（薬剤防除）
1　アブラムシによって媒介されるため、本項のアブラムシ類の防除に基づき防除を行う。

ダイズサヤタマバエ、チョウ目害虫、カメムシ類

（薬剤防除）　農薬登録情報【ダイズサヤタマバエ】・【マメシンクイガ】・【シロイチモジマダラメイガ】・【カメムシ類】
1　発生初期から、薬剤を散布する。

タネバエ

（薬剤防除）　農薬登録情報
1　発生初期から、薬剤を散布する。

ハスモンヨトウ

・共通防除の章のハスモンヨトウの防除の項を参照する。

（予防に関する措置）
1　ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。
2　施設栽培では、成虫の侵入防止対策として、換気窓等の施設開口部への防虫ネットによる被覆や防蛾(が)灯(黄色灯)の夜間点灯を行う。

（判断、防除に関する措置）
1　卵塊や若齢幼虫が群生している葉を見つけ次第、除去する。
2　発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。
3　農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。さらに、地域内で薬剤抵抗性等が確認されている薬剤の使用判断については指導機関の指示に従う。
4　生物農薬を活用した防除を行う。
5　施設栽培においては、栽培終了後に密閉処理を行う。
6　作物残さを適切に処分する。

（薬剤防除）　**農薬登録情報**
1　若齢幼虫のうちに、薬剤を散布する。

センチュウ類

・共通防除の章の資材・苗床・本ぽの消毒の項を参照する。

（判断、防除に関する措置）
1　主にダイズシストセンチュウが寄生して被害を及ぼす。

（耕種的・物理的防除）
1　抵抗性品種を利用する。
2　連作を避ける。
3　有機物（発酵鶏糞や乾燥豚糞など）を施用し、土壌微生物相の改善に努める。
※有機物は窒素を多く含むため、基肥の窒素量を調整し、過剰施肥とならないよう注意する。

（薬剤防除）　**農薬登録情報**
1　生物農薬は予防的に散布する
2　薬剤を施用する。

アブラムシ類

（耕種的・物理的防除）
1　近紫外線除去フィルムは成虫の飛来を減らす効果があるので、これらのフィルムを施設の外張りやトンネルに使用する。
2　施設では、側窓や天窓などの開口部に寒冷紗や防虫ネット等を張り、成虫の飛来を防ぐ。
3　マルチをする場合は、シルバーポリマルチなど忌避効果のあるものを使用する。

（薬剤防除）　**農薬登録情報**
1　生物農薬は予防的に散布する。
※天敵の放飼と薬剤散布（殺菌剤を含む）とを併用する場合は、農薬安全使用に関する参考資料の章の「天敵等への化学農薬の影響の目安」を参照し、天敵に影響の少ない農薬を選択する。
※アブラムシ類の生息密度が高まってからの放飼は十分な効果を得られない場合があるので、発生初期からの放飼が重要である。また、アブラムシの種類と天敵の組み合わせによっては、効果が認められない場合がある。
2　気門封鎖剤を散布する。
3　発生が予想される場合には、薬剤を散布する。

コガネムシ類

（薬剤防除）　**農薬登録情報**
1　成虫の飛来が多く食害が著しい場合は、開花前から着莢後に薬剤を散布する。

ハダニ類

（薬剤防除）　**農薬登録情報**
1　生物農薬は予防的に散布する。
ハダニ類に対しては、以下のような天敵農薬の登録がある。
※天敵の放飼と薬剤散布（殺菌剤を含む）とを併用する場合は、農薬安全使用に関する参考資料の章の「天敵等への化学農薬の影響の目安」の項を参照し、天敵に影響の少ない農薬を選択する。
※ハダニ類の生息密度が高まってからの放飼は十分な効果を得られない場合があるので、発生初期からの放飼が重要である。

フタスジヒメハムシ

（判断、防除に関する措置）
1　成虫はだいずの葉、子葉、莢、茎などを食害する。幼虫は根粒内に潜入して内部を食害する。老熟するまでに数個の根粒を食害するので、多発地ではだいずの生育が悪くなる。

（薬剤防除）　農薬登録情報
1　発生が予想される場合には、薬剤を散布する。